広報 なりた 市民を大切にする市政

成田歴史玉手箱

●33回●

歴史と伝統文化のまち・成田。市内には、歴史ある文化財が多数あります。

吉倉 熊野神社の湯立

煮えたぎる湯のしずくを浴び 無病息災・五穀豊穣を願う

神事の後に持ち帰る消し炭と熊笹、幣束

幣束を付けた4本の榊竹を釜の中に入れ、湯の立ち具合を見る揺湯

境内の前に大釜を据え、四方に注連縄を張る。やがて煮え立った釜の中に熊笹の束を入れ、湯をすくっては氏子たちに振り掛ける。こんな神事が毎年3月1日、吉倉の熊野神社で行われます。

この行事は、吉倉の旧東地区と法華塚大日地区に暮らす熊野神社の氏子たちによって行われる湯立神事で、無病息災・五穀豊穣を願うものです。

わが国で釜を用いる儀式は、「日本書紀」中に盟神探湯と呼ばれる古代の裁判がみられます。熱湯の中に手を入れ、やけどの具合で正邪を判断する占いのようなものでした。その後、熱湯には身を清める力があるとされ、各地に湯立神事が広まったと考えられます。吉倉には湯立神楽として伝えられていますが、実際に神楽を舞うことはありません。言い伝えや文献も残っておらず、いつごろから行われた神事なのかは不明です。

当日は、午後1時から神事が始められます。白装束の神官が祝詞を上げ、お祓いを済ませいよいよクライマックスへ。四隅に刺してある幣束の柄を抜き、それを大釜の中でぐるりぐるりとかき回します。柄を抜く瞬間、湯柱が高く上がれば上がるほど豊作になるといわれています。次に熊笹を煮えたぎる釜の中に入れ、すくい上げ、自分自身に振り掛けることで身を清め、村に侵入してくる魔物や疫病を防ぎます。さらに氏子たちの前で勢いよく左右に大きく振り回します。湯のしずくを浴びることで1年間健康に過ごせるご利益があるといわれています。これを数回繰り返し神事は終了しますが、氏子たちは湯で消した炭と熊笹、幣束を麻紐で縛ったものを各自持ち帰り、荒神様に奉げます。するとその年は火災に遭わず、風邪もひかないといわれています。

現在、市内でこの湯立を見ることができるのは吉倉地区と西和泉地区（毎年4月3日）だけになってしまいました。最近、吉倉地区でも人々が一堂に会する年中行事が少なくなりました。そんな中で湯立神事は、地区の繁栄と人々の結び付きを強める大切な行事の一つとなっています。

神官が氏子たちに湯のしずくを振り掛ける

編集後記

オビシャって何と、時々聞かれることがあります。オビシャは、利根川流域の農村部を中心に昔から行われてきた祭事のことで、矢を射て豊凶を占ったりする神事に由来するとか。この祭事では、五穀豊穣の祈願に続き、神体の受け渡しが行われ、そのあと酒宴というのが一般的。表紙の新妻地区では、この儀式にコイを献納。一時は昨年からのコイヘルペス騒ぎでコイが見つからないのでは心配されましたが、印旛沼にすんでいた元気なコイが献納されました。

広報なりたは再生紙（古紙配合率70%・白色度85%）を使用しています。